

研究課題別中間評価結果

1. 研究課題名： ポストペタスケール時代のメモリ階層の深化に対応するソフトウェア技術
2. 研究代表者： 遠藤 敏夫（東京工業大学学術国際情報センター 准教授）
3. 中間評価結果

研究代表者のグループの課題を中心に一定の成果があるものの、研究体制に変更があることや実質のマンパワーが十分でなく人員体制にも問題があるように見受けられる。また、これに伴い計画に若干の遅れがみられる。後半にむけては各グループのテーマの関係を見直し、重点的なターゲットを設定して展開することにより着実な成果を挙げてほしい。特に、遠藤グループ・佐藤タスクの研究項目については、その進捗と研究の方向性に懸念する意見が多くあった。この項目については具体的な成果が見えにくい面もあり、人的資源の再配置など研究計画を見直し、この項目のテーマの廃止を含め、遠藤タスクあるいは緑川グループの研究に直接的に貢献できるようなプロファイリング／トレーニングやその利用技術に重点を移すことも検討すべきである。さらに、今後、後期での成果のとりまとめ・明確化を行うために、グループ間の連携(Exanaの利活用やメモリ階層対応ランタイムとの統合化などの検討)を進めて欲しい。

成果物としてのライブラリ・ツール等について、まだ期待するレベルまで到達しているとはいえ、当初の研究目標達成のために研究を加速する必要がある。例えば HHRT について、ドキュメントの整備、API の整備、Cuda 以外への拡張等多数の課題があり、これらは難しい課題というわけではないが作業量は多く、体制の成分と適切なプロジェクト管理が必要と思われる。